

環境人間学研究科教務委員会審議	令和2年2月27日
環境人間学研究科教務委員会メール審議	令和2年2月28日
環境人間学部教育研究組織委員会	令和2年3月4日
環境人間学研究科運営委員会	令和2年3月4日
環境人間学研究科委員会	令和2年3月11日

## 兵庫県立大学環境人間学研究科 学位論文審査基準

ディプロマポリシーを踏まえたうえで、以下の観点で学位論文の審査を行う。

### 1. 博士前期課程における修士論文審査基準と手続き

#### (1) 修士論文審査基準

- ①環境人間学を追求する各専門分野の理論または研究課題を探求したものであること。
- ②研究課題の論証および論証に用いられた手法が適切であること。
- ③研究の素材となるデータの信頼性、独創性、及び客観性が担保されていること。
- ④研究手法において、研究倫理上の問題がないこと。
- ⑤論文形式において不備がないこと。

#### (2) 申請条件

- ①修了要件となる在学年限を満たしていること。
- ②本研究科規程に定める授業科目を修め、所定の単位数を修得または修得見込みであること。
- ③中間発表を終えていること。
- ④指導教員の承諾を得ていること。

#### (3) 手続き

- ①申請者は、定める期日までに修士論文及び論文概要を提出する。
- ②申請者は、論文審査発表会において発表し、口頭試問を受ける。
- ③修士論文、発表内容、口頭試問結果をもとに判定を受ける。
- ④申請者は、定める期日までに修正した修士論文と論文概要を提出する。
- ⑤論文審査主査、副査による最終承認と論文審査報告書の提出を経て、承認を受ける。

### 2. 博士後期課程における博士論文審査基準と手続き

#### (1) 博士論文審査基準

- ①環境人間学を追求する各専門分野の理論または研究課題を総合的、創造的に探究したものであること。
- ②研究課題の論証および論証に用いられた手法が適切であること。
- ③研究の素材となるデータの信頼性、独創性、及び客観性が担保されていること。
- ④研究手法において、研究倫理上の問題がないこと。
- ⑤論文形式において不備がないこと。
- ⑥学術的かつ社会的意義を有すると認められるもの。
- ⑦論文は、当該領域における1編以上の査読付き学術論文を主とする、体系化された学術研究であること。必要論文数は、当該学術領域の特徴を踏まえて判断される。

(2) 申請条件

- ①修了要件となる在学年限を満たしていること。
- ②本研究科規程に定める授業科目を修め、所定の単位数を修得または修得見込みであること。
- ③中間発表を終えていること。
- ④長期履修者においては、長期履修短縮該当見込みであること。
- ⑤満期退学者においては、研究指導認定退学の翌日から1年以内に審査終了見込みであること。

(3) 手続き

- ①申請者は、定める期日までに博士論文と要旨を予備審査願と共に提出し、博士論文予備審査委員会の審査を受ける。
- ②予備審査承認後、申請者は論文を修正し、定める期日までに博士論文及び要旨を提出する。
- ③申請者は、博士論文審査会・公聴会において発表し、口頭試問を受ける。
- ④博士論文、発表内容、口頭試問結果をもとに博士論文審査委員会の審査を受ける。
- ⑤申請者は、定める期日までに修正した博士論文と要旨を提出する。
- ⑥論文審査主査、副査（外部審査委員を含むことがある）による最終承認と博士論文審査報告書提出を経て、承認を受ける。

(附則) 令和2年4月1日より適用

(参考)ディプロマポリシー

[全学]

**博士課程前期(修士課程)**

必要な研究指導を受けて、各専攻分野における問題解決および研究活動を行うのに十分な、専門知識と技能を有する。

**博士課程後期(博士課程)**

専攻分野において、研究者として自立して研究活動を行う能力を持つ。

[環境人間学研究科]

下記の能力を身につけた学生に学位を授与する。

**博士前期課程**

諸専門の知識や情報を組織して問題解決に向かう研究態度を身につけている

社会のニーズに応える高度の専門知識と総合的、実践的な問題発見・解決能力を身につけている

**博士後期課程**

環境人間学の学理と方法論をさらに深く科学的に考究できる能力を身につけている

環境と人間のあり方を正しく理解し、環境に関する諸問題に対して総合的、創造的な視点から対処する高度の研究能力を身につけている